

「上出来」の初優勝

競技歴10年弱

ネット66（ハンディ10、グロス76）

浦崎 克己（不知火、58歳）



今大会2度目の出場で栄冠を手にした。インからスタートし、いきなり10番でボギー発進したが、続く11番でバーディーを奪い、13番でもスコアを1つ縮めた。その後、4ボギーで前半のインは39。アウトは2バーディー、3ボギーの37で、グロス76は大会出場選手中3番目にいいスコアだ。

「ショットもパットもいつもにない出来。この前のプロアマ戦の予選ではOBを打って、93だったが、今日はOBが出らんかった。たまたま良かっただけ」と口も滑らかだ。クラブは35歳から握り、競技ゴルフは10年弱という。現在58歳で「元気でゴルフをやれたら、それが一番」とゴルフは人生をエンジョイするツールである。

11月25日の全国大会へは「九州一」の看板を背負って臨む。「OBを打たんようにせんとね。でも、気持ちが小さくならんようにもせんと」とこの日見せたようなプレースタイ

ルを心がける。

ホームコースで初V

ショット好調、Hも生かす

ネット66（ハンディ14、グロス80）

田上 文子（阿蘇大津、55歳）



ホームコースが優しく包んだ。昨年も阿蘇大津GCで開かれた今大会で9位。今回は一気にトップに上り詰めた。ホームコースでは2018、2020年と2回、レディースチャンピオンに輝いている。2017年に当ゴルフ場の会員権を取得し、コースを熟知する女性NO・1が実力通りのプレーをしたのだった。

「（ネット）66は満足だけど、パットがもう少し入っていれば…。3パットが4回もあった。ショットの調子が良かっただけに」と自分のプレーに納得はしていない。それでもホームコースでの初優勝は格別である。

立ち上がりは良くなかった。インスタートの10番でいきなりダブルボギー。前途が危ぶまれたが、12番で30cmにつけてバーディーを奪うと、残り15ホールでバーディーはなかったものの、7ボギーでブロス80。ハンディ14を生かしネット66。2位に3打差をつけての楽勝だった。ただ、ショットが好調だっただけに、しきりに3パットを悔やんだ。

ゴルフは45歳から始めて今年で10年。ホームコースが主な主戦場だ。全国大会には「仕事があるので、休めれば行けるけど。行きたいですね。会社と相談します」と田上は参加を望む。異なった環境を知ると、ゴルフがまた成長する。